

# 居合道 だより

第173号

妙徳山 華厳寺



## はじめに

あでやかな黄を残したまま夕日に映えて散ってゆくイチョウの葉。幹のまわり一面は黄金色の絨毯。そんな風情を楽しむいとまもないように今年にはコロナで過ぎてゆく。

人類は誕生以来ウイルスとの戦いの歴史だった。多くの犠牲を払いながら最後はいつも人類が勝ってきた。そして今、100年ぶりに未知の大敵新型コロナウイルスと戦いの真っ只中だ。

今のところ人類はまだ勝てないでいる。各国の指導者たちは、やれ普通の風邪だとか経済優先だとかなんだかんだと御託を並べずに負けを認めて、世界中の医療頭脳、技術を結集し一刻も早くウイルスを打ち負かして欲しいと全世界の人々が切に願っている。

先月、本来なら博多で開催のはずだった大相撲11月場所で、元大関の照ノ富士が現大関貴景勝と最後まで優勝争いを演じた。

膝の故障で序2段まで番付が落ちた。元大関にとっては奈落の底に等しい地位だったろう。しかしそこから這い上がって、二場所前は幕尻優勝を果たし小結にま

で戻ってきていた。

凄まじいほどの不屈の精神力である。彼の目標は大関に復活することであり、さらに上の地位を目指すことでもあるのだろう。

その照ノ富士に本割で敗れ、決定戦では勝って優勝した大関貴景勝が本割のことを聞かれると「あの相撲は相手の方が強かった」と言った。何の言い訳もせず素直に負けを認めたのである。

これぞ日本の美であり品格だ。どこぞやの大統領に土俵の砂でも煎じて飲ませてやりたいものである。

勝負には常に勝者がいて敗者がいる。偶然の勝ちはあるにしても不思議の負けはない。

たとえ百歩譲ってそこに理不尽な力が働いたとしてもである。そして勝つことだけが価値あることとも限らない。

全てを受け入れることだ。負けを認めるとは己を知ることである。己を知ることとは己に克つ第一歩なのだ。己に克ってこそ真の飛躍がある。

苦しみながらようやくたどり着いた山の頂きから眺める景色、転げ落ちた谷底から沸々と湧き上がる思いで見上げる景色。どちらも人生の糧になり彩りになる。錦繡の秋にも似て。

そして両方の景色を知ってこそ、真の勇者足りえるのである。



## 七段昇段にあたって 北九州居合道同好会 横田靖子

この度、東京都で行われました審査会で七段に昇段させていただきました。これもひとえに北九州居合道同好会の迫野先生、堀江先生、小田先生をはじめ、県の講習会等でご指導いただきました福岡県の諸先生方、先輩、剣友の皆様のお陰です。心より御礼申し上げます。

出産後から今回の審査会を目標にしていた私は、新型コロナウイルスによる活動自粛で道場での稽古が出来ない日々非常に焦りを覚え、自粛期間中は自宅での素振りや体捌き等自宅で出来るトレーニングを自分なりに行いながら気持ちだけは切らさないように過ごしていました。しかしながら自粛明けは思うようにできず、このままではいけないと気合を入れ直し、審査まで稽古を重ねて参りました。

当日は、コロナ渦中の審査会ということで検温・消毒・マスク着用・事前稽古なし・自身の審査終了後は速やかに退場し見学不可等、今までとは全く異なる雰囲気になりましたが、落ち着いて審査に臨むことが出来たように思います。

私が居合を始めたのは小学4年生の頃でした。父（当時五段）・兄と姉（当時二段）の影響を受け「私もやりたい！」と、道場に連れて行ってもらったのを今でも鮮明に覚えています。少年の部時代は、先輩少年剣士から勝星を上げることが出来ずに、居合を辞めたいと思うこともありましたが、父に半ば無理やり連れて行かれるうちに、同世代の剣友が出来、居合に対する意欲が湧き、以降は前向きに稽古を重ねています。進学や就職のたびに継続が危ぶまれることもありましたが、「辞めない！！」をモットーに続けて参りました。

又、結婚・妊娠・出産を経験し、一年以上稽古が出来ない期間がありましたが、先生方のご理解と家族の協力を得て、稽古を再開することが出来ました。

今後は七段に恥じぬよう一層精進して参りますので、これからも引き続き諸先生方におかれましてはご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



## 六段の受審を振り返って 森 重成

今年八月三十日に京都市武道センター開催された居合道六段審査会で、合格を頂きました。ご指導・ご助言を頂きました多くの先生方のお蔭です。篤く感謝申し上げます。

私が六段合格を目指す様になったのは、四段の時に粕屋の飯田先生に指導していただく様になって、五段・六段一発合格と言われた時からでした。

五段合格が六段合格の意識を強くしました。六段は一発で合格は出来ませんでした、今回の受審までに初回の反省点と自分で稽古不足を感じていた点に注意して稽古し、早期の合格を目指しました。

飯田先生に技を直して頂きながら、講習会に参加し多くの先生方の指導と、先輩の先生方の助言を頂いて稽古に励みました。そのご指導のお蔭で、多くの先生方から受けたご指導・ご助言も素直に受け止める事が出来た様に思います。

多くの先生方からの指導・助言は、講習会・稽古の後で要点をノートに書き留め後で読み返す様にしました。

五段ともなればある程度は上手く出来る筈ですが、私は常に注意を受けていましたので、注意を受ける事が少なく成る様に解説書を読みながら稽古し、上手く出来ない時も少しでも上手く成れる様に気長に稽古しました。

指導を受けても上手く出来ない処は、解説書等を読んで理解に努めながら稽古しました。審判・審査上の着眼点は特に注意しました。審査に向けては、試合・審判規則第十一条と細則七条を注意しました。

以上の点に注意しても充分ではありませんでしたが、幾分かは達せたと思っています。

年を取ると躰が思う様には動いてくれませんが、審査が近くなる頃には膝の痛みで着座に苦労する様になりました。一度着座するとその後は割と良いのですが、立ち技や立っている状態が長く続くと次に着座する時に痛みが走ります。そこで審査の時は審査前に頻りに膝を深く曲げて膝を柔らかくして審査に臨みました。それが功を奏したのか、緊張で痛みを感じなかったのは分かりませんが無事終える事が出来ました。又、私は猫背で姿勢が悪いので、稽古の時に常に注意されていました。自分では注意しているつもりでも、着座した時や切り下した時によく注意を受けました。これには気持ちに余裕を持って・注意して行くと良い様ですが、審査や試合では中々余裕を持っては行えませんでした。

今後は楽しく・余裕をもって抜ける様な稽古をしたいと思っています。

私は齢七十を迎え様としており、躰はこれから更に思う様には動かなくなる一方ですが、出来るだけ長く居合を続けられる様に、これからは躰と相談しながらやって行きたいと思っています。

これまで指導・助言を頂きました先生方には心よりお礼申し上げます。



## 居合道審査会に参加して 福岡武道館 横山 一成

令和2年11月8日(日)の居合道6段審査会に参加し合格させていただきました。

私が居合道を始めたのは70才のときで、居合道に励むこと16年になります。

81才のとき、5段に昇段しましたが、この頃から体調の不調を感じるようになり、必ずしも居合道に集中できる状態ではなかったのですが、稽古だけは続けてきました。

そのうち、6段に挑戦できる時期になり、所属道場の先輩、同輩からも挑戦への雰囲気が高まり、私の中でもいろいろ思惑が交差したのですが、最終的に挑戦することを決意致しました。

審査会までの稽古期間は、必ずしも十分でなかったと思いますが、師範のきめ細かいご指導と、先輩、同輩の励ましを得て努力しました。

審査会では、広い会場と、大勢の受審者(6段の部213名)に圧倒されましたが、成果を出すことが出来て、ホッとしています。

これからも、居合道に精進して参りたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



## 六段審査会 福岡武道館居合道部 佐伯伊勢雄

六段審査では、先生方による実戦的なご指導をはじめ、皆様からたくさんの助言や協力をいただきました。あらためてお礼申し上げます。

準備は、自分なりに怠りなくやってきたつもりでしたが、最初の刀礼以外よく覚えておらず、ひたすら体が動くまま、いつの間にか終わってしまったという印象です。

しばらくは達成感とはかけ離れた気持ちでした。

終ると慌ただしく会場を出なければなりませんでしたが、結果は福岡に戻った後、あらためて自分の目で確かめることになりました。

自分では危うい印象でしたが、かろうじて六段の萌芽を見取っていただけたのか、と安堵しています。

いずれにしても種を撒いたのは自分である以上、段位の意味をしっかりと心得て、日本屈指の居合環境を幸わいに、芽を出していただいた先達の方々に引き続きご指導を請いながら、次へ向かっていければと思います。

何しろ言葉は尽きません。ありがとうございました。

# 編集後記

## 京都でパワースポット巡りしてきました

先日京都に出張した。表紙の写真はその時に立ち寄った、<sup>まつのお</sup>松尾「妙徳山 華嚴寺」通称：鈴虫寺というお寺です。華嚴寺は江戸時代中期の享保8年（1723）、華嚴宗の再興のために鳳潭上人（<sup>ほうたんしょうにん</sup>ほうたんしょうにん）によって開かれ、現在は臨済宗に属する禅寺となっています。

年がら年中鈴虫が泣きその鈴虫を前にお坊さんが鈴虫説法を行う。サイトにはお茶とお菓子と書いてあるが、お菓子しか出てきませんでした。まあコロナの影響でしょうか？

このお寺にある「お地蔵様」が有名で、ちょうど表紙の写真の人のいるあたりにお立ちになられておられます。

実はこのお地蔵様、草鞋を履いていて、お願い事をするとわざわざ来てくださり、一つだけお願い事を聞いてくださるとてもありがたいお地蔵様です。

ではお札をいただきたいなど受付で聞くと「鈴虫説法を聞かないとお札がいただけない」とのことで、早速拝観料を500円払い中へ。

聞いているとかなり楽しい説法で、まるで落語聞いているような説法でした。

説法の後にはやっとお札を分けていただける。

釘を刺されたのが「商売繁盛、家内安全はお守りじゃなくお札を買ってね」とのこと  
結局お地蔵様のお守りを頂きましたが、お札2,000円と一般的な神社のお札の2倍！ご利益も2倍か?!と考へましたがとりあえず今回はお守りの300円で合計800円と細かいことを考へながら、お参りしました。

お地蔵様はそれはそれは素敵なお地蔵様で真っ赤な紅葉の下で輝いておいでで本当に草鞋を履いておいででした。早く来てくれませんかね～ちょっと遠いからなあ～ワクワク！

ちなみに拝み方があるそうです。「彼氏欲しい～！」と言ってもなかなか難しいそうでこの場合は「私に相応しい彼氏と出会えますように」と祈願するそうです。また一願地蔵なので、一度願った後にキャンセルはなしだそうです（笑）

……あ、居合いが上手になりますようにって願うの忘れた……キャン…ダメか orz



© 公益社団法人 福岡県剣道連盟・福岡県剣道連盟 居合道部

第173号 令和2年12月発行

発行：福岡県剣道連盟居合道部

URL：<http://riai.info/>

発行人：井手友太

〒819-1132 糸島市有田36番地-1

TEL:092-322-0847

編集：有限会社FEW

表紙：鈴虫寺門前の紅葉 <https://www.suzutera.or.jp/>